

2022年12月1日

## 2022年度「酪総研シンポジウム」開催のご案内

雪印メグミルク株式会社  
酪農総合研究所  
所長 戸邊 誠司

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は、当研究所の事業推進に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、酪農総合研究所では、酪農乳業をめぐる諸問題をテーマに取り上げ、皆様と情報共有を図るとともに、私どもの研究内容及び諸活動を多くの方々に理解を深めて頂き、その普及を図ることを目的に、「酪総研シンポジウム」を開催しております。

本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大が依然として不透明な状況を踏まえ、「実開催とWEBを併用した開催」と致します。例年とは異なる方法での開催となりますが、多くの皆様にご活用頂けますよう準備を進めてまいりますので、ご多忙とは存じますが多数の皆様のご参加を賜りたく、ご案内申し上げます。

敬 具

記

1. テーマ 「今こそ飼料の国産化を！～それぞれの地域で出来ることを考える～」
2. 目的 コロナ禍による国際輸送網の混乱、ウクライナ危機による原油や穀物等の供給減少・価格高騰、急激な円安によって、我が国酪農においては飼料等生産資材の海外依存度が高いことから酪農経営を直撃している。現下の不測の事態を契機として、あらためて飼料国産化への取組みを強化・推進することで、不確実性が高まる海外情勢からの影響を緩和し、日本酪農の持続可能性を高めていくことが重要である。  
こうした状況を踏まえ、2022年度酪総研シンポジウムでは「今こそ飼料の国産化を！～それぞれの地域で出来ることを考える～」をテーマに、拡がりを見せる国産濃厚飼料の利活用に係る現状と今後の展望やベースとなる自給粗飼料の確保・流通等にスポットを当て議論を深めたいと考えております。  
本シンポジウムが皆様の酪農経営のみならず、今後の地域での取組みや課題解決への一助となれば幸いです。
3. 開催日時 2023年2月2日（木）13：00～17：00 （実開催会場の受付開始12：30）
4. 内 容 講演 1 「国産濃厚飼料の利活用について（仮題）」  
東京農工大学大学院 農学研究院 教授 青木康浩 氏  
講演 2 「自給飼料利活用に係る北海道現場事例（仮題）」  
① “気象リスクを分散する自給飼料生産の取組み（仮題）”  
北海道大樹町 酪農家 村崎隆一 氏  
② “飼料用トウモロコシの拡大と牧草の適期・多刈刈への挑戦  
（仮題）”  
北海道標茶町 酪農家 大宮睦美 氏  
講演 3 「自給飼料利活用に係る都府県現場事例（仮題）」

“稲WCSから始まった地域と連携したTMRセンターの役割と  
貢献（仮題）”

千葉県香取市 酪農家 長嶋透 氏

総合討議 座長：雪印種苗(株)トータルサポート室長 龍前直紀氏

ゲストコメンテーター（情報提供）：

酪農学園大学 農食環境学群循環農学類 教授 相原晴伴氏

“制度政策面からの視点にて”

パネリスト：講演者4名

5. 参加費 無料

6. 参加方法 実開催会場とWEB参加のうち、下記の選択肢のいずれかを選んで下さい。

① 実開催会場での参加

「TKP札幌ビジネスセンター赤れんが前」

〒060-0004 札幌市中央区北4条西6丁目1 毎日札幌会館5階

② WEB参加

Zoom使用を予定

③ どちらでも良い（実開催 or WEB）

ただし、実開催会場は人数制限がありますので、申込多数の場合、抽選の上、WEB参加への変更のお願いをする可能性があります。

上記の①と③へ申込頂いた方には、「実開催会場への参加の可否」を、参加申込締切後、メールにて連絡致しますので、予めご了承ください。

7. 参加申込 (1) 申込方法（参加には事前申込が必要）

下記（ここをクリックして下さい）か、QRコードから参加フォームを開き、必要事項を記入し登録して下さい。

[ここをクリックして下さい](#)



後日、参加申込フォームに記載されたメールアドレスに、視聴用URL等を連絡致します。

(2) 申込締切

2023年1月13日（金）までにお申込下さい。

8. その他

今後の新型コロナウイルス感染拡大状況によっては、開催方法等を変更する可能性があります。その場合、都度メールやホームページ等にて連絡をしますのでご了承ください。

ご連絡頂きました個人情報は、本件のみに使用致します。

ご不明な点は、雪印メグミルク(株)酪農総合研究所 下村・越智（TEL：011-704-2131、FAX：011-704-2417）まで。

以上